

どうほんめいくようとう  
20 道本銘供養塔



指 定 平成元年4月1日 屋久島町指定有形文化財（歴史資料）  
所在地 屋久島町宮之浦

ここ釈迦堂境内にある山川石（現在の指宿市山川地区で採掘されていた溶結凝灰岩）で作られた供養塔で、笠塔婆として完全な形として残っています。塔身正面に、

「慶長元年（1596）丙申□□華経道本霊 七月廿三日」  
という銘文が刻まれています。時代は戦国時代末期と古く、「道本」という名前も明らかで、貴重な資料といえます。

また、ここ釈迦堂から北西に200メートル離れたところに妙定銘供養塔があり、妙定銘供養塔も山川石の笠塔婆で、慶長元年に立てられています。本来道本銘供養塔と一対をなすものと考えられますが、何らかの理由により、現在は個別に存在しています。

◆ 釈迦堂 ◆

釈迦堂は、島津藩から派遣された屋久島抑の町田孫七により、元禄元年（一六八八）に建てられたとされています。貞享三年（1686）の春、楠川に釈迦如来像が漂着し、それを機に孫七は釈迦堂を建て、全島の僧侶を集めて供養したそうです。その頃、中国の金山寺というお寺が洪水によって流されており、この釈迦像はその寺の仏像が漂着したものとされています。